

敷津小学校 校長 原 雅史



少し、きびしいお話かもしれませんが、いまみなさんが、自ら学ぶことの大切さに気づいて、テレビの前からはなれて、スマホ、スイッチを持つ手をえん筆にきりかえて、みなさんが自分の意思で学びに向かっているのです。

こういう学び方を「自主てきに学ぶ」と言います。今、このひじょう事たいせん言のときには、この「自主てきに学ぶ」ことがとても大切だと校長先生はみなさんにうったえたいのです。

実は、みなさんはあまり知らないと思いますが、この4月から学校にかかわるルールが大きくへんこうとなりました。(新学習指どうようりょうの実しといいます) どんなへんこうかといいますが、今までのじゅ業は、「先生が教える」ということが中心でした。それが、なんと「子どもが学ぶ」ということにじゅ業の中心がかわるのです。「なんだ、そんな大きなへんこうじゃないやんか。」いやいや、とても大きなへんこうなのです。じゅ業がどんなふうにかかわるのかは、あ

とでくわしく言いますが、文部科学しょうのひとは、「主体てき、対話てきで深い学び」のあるじゅ業をするために、「子どもの学び」をじゅ業の中心にしなさいと言っているのです。このさいしょの「主体てき」こそ、先ほど言いましたように、今のみなさんに一番もとめられていることなんです。

これが、本当ならばこの4月から学校の教室で行われるはずだったのですが、しかたありません。が、「主体てき」な学びだけは、今日からでも、みなさんのお家で始めることができるのです。学校がなくても、家でひとりで、「勉強がんばろう！」と思うところから、この「主体てき」な学びは始まります。

では、なぜ文部科学しょうは今までのじゅ業のやり方をこの「主体てき・対話てきで深い学び」「子どもの学びをじゅ業の中心にする」方ほうにかえようとしたのでしょうか。それは…。

(続きはまた次回にお話しします)